

「腹腔鏡下肝切除およびロボット支援下肝切除術の導入と短期成績」 に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、市立吹田市民病院臨床研究審査委員会の承認を得て、病院長許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

1. 研究の対象となる方

2022 年 4 月 1 日から 2025 年 8 月 31 日の間に当院で腹腔鏡下またはロボット支援下で肝切除を受けた患者さん

2. 研究の目的

腹腔鏡下肝切除術は 2010 年に部分切除・外側区域切除術を対象に保険収載され、2016 年には保険適応が拡大されました。現在腹腔鏡下肝切除術は全国で急速に普及してきていますが、いまだ導入されていない市中病院も多くあり、当院も 2022 年 4 月までは腹腔鏡下肝切除がいまだほとんど導入されていなかった施設でありました。しかし 2022 年 4 月腹腔鏡下肝切除術の執刀経験豊富な医師の赴任に伴い、当院でも腹腔鏡下肝切除術の導入を行っています。またロボット支援下肝切除に関しても 2022 年に保険適応となったことから当院でも準備を進め、2025 年にロボット支援下肝切除術の導入を行いました。

一方で腹腔鏡下肝切除術は整容性・低侵襲性といったメリットだけでなく、拡大視効果・気腹効果に伴う出血量の減少や近年では長期成績の向上につながるなどの報告もありますが、鉗子の動作制限や手術時間の延長、さらには術者の技量などによる術中術後合併症のリスクなどの課題も挙げられます。またロボット手術に関しても高精度 3D ハイビジョン画像、拡大視効果、高い自由度を有する多関節鉗子、手ぶれ補正機能の利点があり、ロボット肝切除においては複雑な肝離断、グリソンや肝静脈の処理、脈管の結紮・縫合、肝臓の把持などに有用であるとされています。欠点としては、肝離断時の肝実質破碎専用器具が十分に揃っていないこと、ロボットアームの体外干渉による動作制限、触覚の欠如、大出血時の対応などが挙げられます。

本研究は当院での腹腔鏡下肝切除術およびロボット支援下肝切除術の導入が安全に行えているかを検証することとしています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026 年 8 月 31 日

4. 利用または提供の開始予定日

2025 年 10 月 20 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に可能な限り対応いたします。

5. 研究に用いる試料・情報の内容とその取得方法

当院で腹腔鏡下またはロボット支援下で肝切除を受けた患者さんの既存の血液検査データおよび診療記録等を用います。

※この研究で得られた患者さんの情報は、研究責任者である桂宜輝が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

6. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

市立吹田市民病院 外科 桂 宜輝

7. 試料・情報の管理責任者

市立吹田市民病院 病院長 内藤 雅文

8. お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

○研究課題名：腹腔鏡下肝切除およびロボット支援下肝切除術の導入と短期成績

○研究責任者：市立吹田市民病院 桂 宜輝

○お問い合わせ先：

市立吹田市民病院 外科 桂 宜輝

住所：〒564-8567 大阪府吹田市岸部新町 5-7

電話：06-6387-3311（代表）（土日祝日を除く 9：00～17：00）